

<p><b>Editorial</b></p> <p>OTC 化推進で総医療費増加の懸念 51</p> <p><b>総説</b></p> <p>骨粗しょう症ガイドライン 2025 52 薬物予防に偏り、予防方法の本質を無視</p> <p><b>New Products</b></p> <p>更年期障害（ほてり）にフェゾリネタント 58 効果に対して害が大きすぎる</p> <p><b>害反応</b></p> <p>GLP-1 作動剤による大腸内視鏡検査の失敗 63</p>	<p><b>薬害は終わっていない</b> ③ HPV ワクチン薬害</p> <p>HPV ワクチン薬害とは——医学的観点から 64 奪われたものは人生そのもの 梅本美有 65</p> <p><b>Others</b></p> <p>薬剤師国家試験に挑戦しよう（問題） 57</p> <p>医薬品危険性情報ピックアップ 68</p> <p><b>FORUM</b></p> <p>Q&amp;A：日本でのサリドマイドの医療・治療現状は？ 69 サリドマイドは一律の治療方法が適応できない 70</p> <p>コーヒー無礼区 この頃の若い人は…… 70</p> <p>薬剤師国家試験に挑戦しよう（正解と解説） 71</p> <p>次号予告／事務局だより／編集後記 72</p>
---	--

表紙のことは：北海道開拓時代に活躍したしづか号の記憶、小樽に眠る。

編集部  
から

「医療費の補助が出る」と聞くと、お得な感じを覚える。HPV ワクチンや、新たに公費接種が認められた乳児 RS ワクチン「アブリスポ」については、本誌は接種することによって害が大きくなると警鐘を鳴らしてきたが、これらの公費接種のワクチンを希望する方に「やめておけ」とは言いづらい。国が接種費用の一部または全部を負担するのだから必要なワクチンに違いない、と考えるのは、正確な情報を把握していなければ無理もない。

一方で、新たに医療費の負担が増えるとなると、必要な治療であっても治療を控えたいという心理が働いてしまう。政府は、がんの治療を受ける方たちからの強烈な反対があり一度は撤回した高額療養費の上限額引き上げを、今度は最大で 7 割増やす案に加え、OTC 類似薬 77 成分の一部を健康保険外にする案を国会に提出し、衆議院を通過させた。自費診療分の負担増で、必要な治療を受けることをためらう人たちは増えるだろう。

私たち医療従事者も憤懣やるせない。OTC 類似薬の中には治療に必須な成分も含まれているが、その薬を使うことで保険診療から逸脱したとしてペナルティを受けている心理が働いてしまう。細かいところでは、「類似薬」というのも詐欺的な表現で、いくらでも対象とする薬剤を増やせる余地がある。常日頃から正しい治療と処方に関心を注ぐ医師や薬の適正使用を推進する薬剤師を馬鹿にしたような、加えて本誌の活動の根幹にかかわるこのような制度はまっぴらごめんである。(な)